

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2021年1月15日

今月のトピックス 「個人投資家は儲かっていない？」

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様に役立つようなニュースを執筆できるように頑張りたいと思います。本年も昨年同様、何卒よろしくお願いいいたします。

昨年、日経平均株価は2万7000円台に乗せて終了しました。2万7000円台は30年ぶりの水準で、いよいよ今年は3万円台乗せも絵空事ではないようです。株価の上昇は日本だけではなく、米国株なども史上最高値を更新と報じられるように世界同時株高となった1年が昨年でした。さぞかし個人投資家の懐は温まっているのでは?と思われるかもしれませんが、残念ながら懐はあまり温まっていないようで経済にプラスに働く「資産効果」は期待できそうにありません。

なぜなら個人投資家は株式や投資信託をかなり売り越しているからです。株価は昨年11月初旬の米国大統領選後に急騰しましたが、その11月に個人投資家は国内株式を1兆8503億円(信用取引含む)も売り越して、投資信託も4343億円売り越しているのです。合算すれば2兆2846億円も売り越したのです。残念ながら昨年1年間の売買動向のデータはこのコラムを書いているときに公表されていませんが、11月末現在で投資信託は年間約2兆6000億円、株式は約5230億円、合計3兆1230億円売り越しているのです。もちろん、昨年3月の株価急落局面などで購入した株式や投資信託を売却した個人投資家は、上手く利益確定を行った人もいるでしょうが、11月以降の急騰、さらには12月終盤の2万7000円台乗せの上昇局面の恩恵にあずかっていないことは確かといえるでしょう。

なぜ、株式や投資信託を大きく売り越しているのかといえば、1つは株価が実態経済とかい離していることから、株価上昇が半信半疑であることが大きいと思われるのです。筆者は現在の株式市場は、新たな上昇相場が始まっていると思われてならないのですが、ある程度株式投資の経験値がある個人投資家ほど今のような上昇相場は半信半疑になってしまうのです。日経平均株価が史上最高値まで上昇した80年代後半のバブル相場の上昇を「新人類相場」と呼んだのですが、そのときを髣髴されてならないのです。当時も株価上昇は経験値がある投資家ほど半信半疑で、経験値がない投資家は素直に上昇相場について行ったのです。2020年の上昇相場も結果として経験値が邪魔をしたことになり、早めの売却に動いてしまったと判断できるのです。

あくまでも筆者の予測ですが、新たな上昇相場が始まっているとすれば、株式市場は想定外の上昇もありえ、日経平均株価がバブル期の高値3万8915円を数年内に抜くのも絵空事ではないと考えています。もちろん1本調子の上昇ではなく、上昇下落の紆余曲折を経てということになりますが……この上昇相場の終焉は米国のFRBの金融緩和の政策転換まで(示唆で終了もある)と思えてなりません。FRBのパウエル議長は金融緩和を2~3年続けると公表しているのです。ただし、想定以上に景気が回復して加熱気味になれば金融緩和は前倒しで終了=上昇相場の幕が引かれるということもお忘れなく!